

1. はじめに

12月に入り、いよいよ発掘調査も終盤を迎えました。今月号では、最近の調査で見つかった鎌倉・室町時代の「掘立柱建物（ほったてばしらたてもの）」、「溝（みぞ）」、「井戸」についてお伝えします。

なお、この「発掘調査だより」は市ホームページ (<http://www.city.agano.niigata.jp/soshiki/gakushu/23743.html>) にも公開しています。合わせてご覧ください。

2. 砂田遺跡の調査のようす

【掘立柱建物】

調査区の中央付近で、径40cm、深さ30cmほどの穴がたくさん見つかりました。これらは、建物の柱の穴であると思われます。残念ながら柱そのものは残っていませんが、穴の底に柱があたっていた部分には、色の違う円形の痕跡が残っています。

同じくらいの大きさの柱穴を調べていくと、対応関係が見えてきます（写真1）。この建物は8～9本の柱穴からなる6m×5.8mの建物になります。このように、柱で組んだ建物を「掘立柱建物」と呼びます。写真2は、栃木県宇都宮市飛山城（とびやまじょう）史跡公園にある鎌倉時代の復元建物（能登畠山氏七尾の歴史より http://nanao.sakura.ne.jp/visit_castle/tobiyama_jyo.htm）です。柱を組んで土壁を塗った板葺き屋根の建物ですが、砂田遺跡で見つかった建物もこのような建物だったのかもしれませんが。



写真1 掘立柱建物跡

【溝】

調査区の西側では大きな溝が見つかりました。昨年度の調査区から続くこの溝は、幅3m、深さ1mもあり、南北方向に伸びています。人の手によって作られた溝であると思われますが、まっすぐではなく蛇行しています。もしかしたら小河川跡、地震による陥没である可能性もあります。この溝の中からは、この時代に能登半島でたくさん作られていた「珠洲焼（すずやき）」の甕（かめ）・すり鉢の破片（写真3）、古銭（写真4）などが出土しました。



雨天の作業風景



写真2 復元された鎌倉・室町時代の建物



写真3 溝から出土した珠洲焼



写真4 左：開元通宝 中央：大観通宝 右：元祐通宝（拓本は永井 1996 より）

古銭は18枚がまとまって出土しました。現在、判読できるものは3枚になります。左から開元通宝（かいげんつうほう）は中国の唐銭、大観通宝（たいかんつうほう）、元祐通宝（げんゆうつうほう）も中国の北宋銭です。

これらのお金のつくられた年代は、開元通宝が621年、大観通宝が1107年、元祐通宝が1086年と様々です。鎌倉・室町時代には、すでに銭が市中に出回っていましたが、何十枚かの穴あき銭に紐を通して、ひとかたまりとして使っていたと言われます（写真5 山梨コインクラブのブログより <https://blogs.yahoo.co.jp/yamanasikoinclub>）

一枚一枚の銭の種類はあまり関係なく、古い時代の銭が混ざっていることも多かったのでしょう。



写真5 紐を通した銭

【井戸】

調査区の中央、掘立柱建物の南側で、直径3m、深さ1.5mの深い穴が見つかりました（写真6）。穴の上位では珠洲焼の甕の破片が見つっています。

昨年度の調査で見つかった井戸のように、木製の枠などは見つかりません。しかし、底には木材が溜まっていて、その中に板や曲物（まげもの）の木片が含まれていました（写真7）。また、穴の底に溜まった土にはたくさんの植物の種実が含まれていました。このような特徴は井戸の埋め土によく見られるものです。

このような理由からこの穴は井戸であると考えますが、まだ確定はできません。今後、詳細を調べていきたいと思ひます。

〈参考文献〉

永井 久美男 1996『日本出土銭総覧』
兵庫埋蔵銭調査会



写真6 井戸の完掘状況



写真7 井戸底から出た木材